



ロバパンカップ 第49回全道(U-12) サッカー少年団大会 札幌地区予選

全道大会進出おめでとう!!

AGGREU-12 北海道コンサドーレ札幌D
北海道コンサドーレ札幌B Cereza
北海道コンサドーレ札幌A FC DENOVA
石狩FCレッド JSNレッド
クラブフィールズ

札幌地区代表を目指して各会場で熱戦が繰り広げられました。結果、上記9チームが全道大会に進出しました。全道大会は札幌開催。7月末に行われた全道大会でも、札幌代表チームの健闘が光りました。

7月3日(日) 美原G Aブロック

AGGRE U-12

北海道コンサドーレ
札幌U-12C

4

3-1
1-0

1

どんよりとした空のもと16時20分に、AGGREのキックオフで試合は開始された。

試合開始から、AGGREの激しいプレッシャーを交わしながらコンサドーレ札幌Cがパスを回して反撃するといったゲームの展開となった。

開始6分、AGGRE10番のフリーキックにゴール左サイドへ飛び込んだ9番がヘディングで合わせてゴール。AGGREが先制点を取った。

開始9分には、AGGREのゴールキックをコンサドーレ札幌DFが後ろにそらし、走りこんで来たAGGRE9番がゴールキーパーと1対1からシュートを放ち、AGGREが追加点を奪った。

13分にはAGGRE10番のコーナーキックから

きずな

またも9番が決め3点目となった。

コンサドーレ札幌の反撃は、前半13分、コンサドーレ札幌8番が左サイドをドリブル、10番へパス、ワンツで8番へ戻し8番がドリブルそのままシュートを放ちゴールを決め1点を返す。その後もコンサドーレ札幌Cが次々とシュートを放つが得点することはできず、前半は、AGGRE3点对コンサドーレ札幌C1点。

後半2分、コンサドーレ札幌が自陣でファール。ゴール正面約30mからAGGRE10番がシュートを放つもキーパー正面。キーパーが抑えたかと思われたが、キーパーの股の間をすり抜けゴールが決まる。AGGRE4点目。

コンサドーレ札幌は、中盤から確実にパスをつなぎ、AGGREゴールに次々にシュートするが、AGGREはゴールキーパーを中心にコンサドーレ札幌の猛攻に耐え試合終了。

4対1でAGGREU-12が全道大会の切符を獲得した。



7月3日(日) 美原G Bブロック		
北海道コンサドーレ 札幌 U-12D		札幌ジュニア
3	2-0 1-0	0

前ブロックの準決勝が延長となり、30分遅れでの決勝。準決勝の時とは一転し、急激に気温が下がり強風が吹く中、風上に立ったコンサドーレDのキックオフで試合開始。

コンサドーレDは風上ということもあり、遠目からのゴールを積極的に狙うも、札幌ジュニアのGKに阻まれ序盤は均衡した試合展開が続く。

前半14分、均衡を破ったのはコンサドーレDの10番。味方からのパスを中央で受け、ドリブルでペナルティエリア内まで持ち込み、ゴール右隅へ先制のゴールを決める。

さらに、前半18分。コンサドーレDの15番が風上からの強烈なミドルシュートを決め、2-0で前半を終了。

後半に入り、札幌ジュニアが風上に立つ流れは変わらず、対して風下のコンサドーレDは、細かいパスで繋ぎ試合を有利に進める。

そして、後半9分。コンサドーレDの14番が、自陣からペナルティエリア手前までドリブルで中央突破し、右コーナーヘスルーパス。味方からの折り返しをヘディングで合わせ決定的な3点目。

一矢報いたい札幌ジュニアは試合終了間際、4番が一人で抜け出しシュートを放つもゴールポストのわずか上…。そして試合終了のホイッスルが鳴った。

3-0でコンサドーレDが全道大会出場を決めた。



7月3日(日) SSSG Cブロック		
北海道コンサドーレ 札幌 U-12B		ベアフット
5	2-1 3-0	1

コンサドーレBのキックオフで試合開始。試合が動いたのは前半3分コンサドーレBの攻撃。パス交換から3番左サイド突破ゴール右上ヘシュートが決まり1-0。ベアフットの反撃は直後の4分、12番から33番へのスルーパスもオフサイド判定。

7分、コンサドーレBは14番からのパスを3番受け冷静にDFをかわしシュート2-0とした。

一方のベアフットは、前線からプレスをかけ相手陣内でプレーする時間が増えてきた8分、9分、10分とボール奪取からゴールへ迫るも決定的なシーンはつくれず。そんな中で14分、ベアフット33番からのスルーパスに抜け出した12番落ち着いて決め2-1とし、前半を2-1で終了した。

後半もコンサドーレBのボール保持率が高く、24分、29番のミドルシュートをベアフットGKセーブもCKとなり、32番のCKを6番がヘディングで合わせ3-1。さらに26分、中盤からのパス交換から左サイド22番のすばらしいミドルシュートが右上隅に決まり4-1。29分には、22番からのパスを3番が冷静に決め5-1と得点を重ねた。

33分、ベアフット33番前線からのディフェンスでボールを奪いシュートはなつてもGKがセーブ。

34分、35分、36分とコンサドーレBがシュートをはなつてもベアフット32番がスライディングで防ぐなどして得点は動かず。

その後は中盤で互角の争いで時間経過、5-1で試合終了し、コンサドーレBが全道大会進出を決めた。



7月3日(日) SSSG Dブロック		
北海道コンサドーレ 札幌 U-12A		札幌大谷地
2	1-0 1-1	1

曇りの中、コンサドーレのキックオフで試合開始。先手を取ったのはコンサドーレ。開始直後の前半2分、18番のミドルシュートで先制した。

大谷地は直後の3分に20番がシュートを放つがゴールキーパーの正面に行き同点にはならず。

7分には、コンサドーレ40番右からシュート、14分にもコーナーキックから5番が合わすも得点には至らない。

一方大谷地は16分、19分とフリーキックのチャンスを得るもゴールならず、コンサドーレの1得点で前半が終了した。

後半は大谷地のキックオフ。23分、コンサドーレ19番が大谷地の選手に競り勝ち、右足でのシュート。これが決まり大谷地から2点目を奪った。

大谷地も粘り強い守りから攻撃に転ずるがコンサドーレ5番のセンターバックの落ち着いたプレーにはね返される。

しかし33分、コンサドーレのファール。大谷地の10番のフリーキックをゴールキーパーが弾いたところを29番が執念で押し込み1点を返して1点差とした。さらに36分、大谷地10番フリーキックはバーに当たり9番がヘッドで合わすが再度バーに当たり同点とはならず。試合終了間際コンサドーレは27番が右サイドを狙いシュートをするも3点目を奪えず。大谷地も試合終了まで得点を奪いに行くが2対1で試合終了し、北海道コンサドーレ札幌U-12Aが全道大会出場を決めた。

7月3日(日) SSSG Eブロック		
Cereza		西園
0	0-0 0-0 0延前0 0延後0 4PK3	0

Cerezaのキックオフで試合開始。中盤での攻防、お互い早い攻撃を狙うもゴール前のシーンは少なく一進一退の展開となる。

8分、西園17番、19番が連続でシュートをはなつもGKセーブにて得点にはならず。

両チームのGKは、広いエリアをカバーし、カウンターも決定機にはならず、前半を0-0で終了。

後半は25分、26分とCerezaは早いリスタートから裏に抜け出しチャンスつくるもシュートまではいけない。対する西園は17番、19番がゴールに迫るもGKのセーブ、枠をとらえることができず時間が経過する。0-0で後半終了し、延長戦となる。

延長前半開始直後Cereza CKから2度のシュートも西園はDFの体を張った守りで死守。

45分西園7番、17番のシュートはGK正面をつき得点にはならず。

延長後半46分、CerezaはGKと1対1のシーンつくるも西園GKがセーブ。

その後お互いシュートをはなつも、GK正面や枠にいかず0-0のまま試合終了、全道大会への進出はPK戦で決まることとなる。

先行Cereza、後攻西園PK戦開始。両者とも確実にPKを成功させたが、西園4人目のキックが惜しくも枠をはずし、PK戦4-3でCerezaの勝利が全道大会進出を決めた。

7月3日(日) 美原G Fブロック		
石狩FCU-12レッド		清田南
6	2-2 4-0	2

清田南のキックオフで試合開始。開始早々、石狩FCがパスをつないで攻め上がるが、オフサイドやラストパスの前でのインタセプトで清田南にはね返されるといった激しい攻防が続いた。

ファーストシュートは、石狩FC8番。これはゴールキーパーのファインセーブで防がれた。

試合が動いたのは前半4分、石狩FCのパスを奪った清田南8番がそのままゴールキーパーをかわしてゴールイン。先制点を奪う。それに対し前半9分、石狩4番は左からのパスを右サイドにつなぎ、それを8番がしっかりと決め、1対1の同点とする。

前半10分、清田南8番が石狩のゴール前でボールを奪いゴール。2対1で再びリードする。しかし、石狩FCはパスを正確につなぎ清田南のゴールに幾度となく迫る。前半終了間際、石狩8番が、味方の

シュートがゴール前にはじき返されたところを詰めて2対2の同点とし、前半が終了した。

後半立ち上がり、石狩の激しい攻撃が続く。2分には石狩5番14番とパスをつなぎ8番がドリブルシュートを決める。3分には、4番のミドルシュートも決まって、4対2とする。

その後、清田南は石狩の攻撃を跳ね返し、フリーキックやコーナーキックから反撃を試み相手ゴールに迫ったが、惜しくも得点することはできなかった。石狩はその後4番10番が追加点を奪い、全道大会出場を決めた。



7月3日(日) SSSG Gブロック		
FC DENOVA		札幌開成
4	3-1 1-0	1

DENOVAのキックオフで試合開始。DENOVAが素早い攻守の切り替えで主導権を握る。前半3分、この試合のファーストシュートをDENOVA10番がミドルレンジから左足で放ち、これがゴール左隅に決まって先制。さらに5分、またもや10番が右から左にスライドし左足で今度はゴール右隅に強烈なシュートを決める。

11分、反撃に出た札幌開成は、右からのヘディングでのクロスから、22番がボレーで合わせ1点を返す。16分にはスローインを受けた22番がシュートを放つがキーパー正面。17分、起点となっていたDENOVA10番が左足ふくろはぎを痛め途中交代するが、20分、11番が9番からの落しをダイレクトでゴール右隅に決め、前半を3-1で折り返す。

後半もDENOVAペースで試合が進み、6分には5番が右サイドでオーバーラップから中央の9番に合わせ4点目を決める。DENOVAはキーパーが札

幌開成の枠内シュートを幾度も落ち着いて処理し、安定感をみせた。このまま試合は終了し、FC DENOVAが全道を決めた。

7月3日(日) SSS G Hブロック		
JSN レッド		真栄
2	1-0 1-1	1

Hブロック札幌地区代表決定戦は、JSNと真栄の対決となった。風が少し強い中ではあったが、ピッチのコンディションは良好で、両者緊張の中、真栄のキックオフで試合が開始された。

前半10分まで両者は互いに一步も譲らず、白熱した展開となった。その均衡を破ったのは、JSN。前半13分、JSN19番の右サイドからのミドルシュートが真栄ゴール右上に決まり、先制点となる。その後、両者は互いに相手ゴールにせまるも得点とはならず、JSNの1点リードで前半が終了する。

父母の応援も白熱する中、JSNのキックオフで後半がスタート。開始早々4分、JSN9番のドリブルから強烈なシュートがゴールネットにつきささり、貴重な追加点となる。2点差とされたものの真栄の選手はあきらめることなく相手ゴールを目指す。なかなか得点することができずに試合時間は経過していった。しかし、後半17分過ぎ、JSNが味方ゴールキーパーへバックパスしたところを真栄10番は見逃さずパスカットし、待望のゴールを奪い、1点差とする。その後、中盤での攻防は激しさを増し、互いにボールを奪い合ったがそのまま試合終了のホイッスル。JSNが2対1で激闘を制し、全道大会の出場を決めた。



7月3日(日) SSS G Hブロック

クラブフィールズ

フォーザSC

1

0-0
1-0

0

クラブフィールズのキックオフで、試合開始。立ち上がりからクラブフィールズが優位に試合を進める。フォーザDFラインの背後へのロングパス、19番のドリブル突破からのシュート、相手のクリアボールを拾っての二次攻撃、コーナーキックからと多くのチャンスを作り出す。しかしフォーザSCはゴールキーパーの好セーブやDFラインの体を張った守備で、ゴールを割らせない。時折前線のチェイシングでボールを奪いカウンターからチャンスを作り出す。前半は互いに譲らず、0-0で終了。

後半開始直後、フォーザSC9番が抜け出しゴールキーパーとの1対1になるが、ゴールキーパーの好セーブで得点ならず。その後は膠着状態が続く。両ベンチは選手交代で試合の流れを変えようとする。

試合が動いたのは後半13分、ハーフライン付近からクラブフィールズ18番がドリブルでもちあがりフォーザDFを引き付けたところで、オーバーラップしてきた37番へパス。37番はそのままペナルティエリアに進入しゴールキーパーの動きをよく観てシュート。待望のゴールが決まる。その後はフォーザSCが粘り強い守備からボールを奪い反撃するが決定機をつくれないうままタイムアップ。クラブフィールズが、全道大会への進出を決めた。



全道大会の結果は道協会のHPをご覧ください。